



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



黒部ダムの勇壮な放水

林政記者クラブ 国有林を視察

主な項目	○ 林政記者クラブ国有林を視察.....	P2
	○ 各地からのたより	P3
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P5
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P6

林政記者クラブ国有林を視察

【総務課】九月二十八日から二十九日の両日、林政記者クラブ（中部森林管理局管内加盟社）の国有林視察を富山森林管理署管内で実施しました。

当日は、林政記者クラブ四社から四名が参加され、森林管理局からは次長、総務企画部長、名古屋事務所副所長、広報主任官が同行しました。

一日目は、黒部ダムとアルペンルートを通して雄大な大自然と黒部ダムを視察しました。周辺は長野、富山両県にまたがる国有林が広がっており、水や国土の保全、観光面について国有林の果たす役割のアピールを考えていたのですが、雨と濃霧で景色が見えない分想像力を発



木村次長の挨拶により開会

揮していただくこととなりました。

中信森林管理署に集合した一行は、次長の挨拶後バスでスタート、車中で自己紹介を行いトロリーバスの出発駅、扇沢に着きました。ここで関西電力職員の方より黒部ダム等について説明を受け、自然にやさしいトロリーバスで黒部ダムへ向かいました。



黒部ダム等の説明



ダムカレー
(グリーンカレー)

富山森林管理署次長、森林技術指導官、森林官と合流し昼食、私はかの有名な「ダムカレー」をいただきましたが大変美味しかったです。幸なことに、食事を終え外に出ると雨が小降りになっておりダムを見ながら関西電力

職員の方の説明を聞き、ダムの雄大さに触れることができました。しかし、残念ながらこの後は、濃霧と雨が激しくなり立山ロープウェイ、大観峰は真つ白で何も見えず、室堂でも雨が強く危険なため立山自然保護センターで立山の自然を紹介したビデオを鑑賞し、森林官から山岳観光地ならではの巡視業務の難しい点などについて話を聞きました。



大規模な山腹施工地の説明状況

記者の方々は、山腹工の規模の大きさと工法に興味をもたれ、説明者二名に質

問が相次ぎました。次の溪間工では、木製型枠や規模の大きさ、コンクリートの代わりに現地産の大転石使用や、現地の作業環境の過酷さに感嘆しきりでした。



溪間工の説明状況（本年度は2年目で作業は終了）

生憎の空模様でしたが、どうにか予定どおり視察が実行でき記者クラブの皆様から多くの質問もいただき有意義な視察となりました。終わりに、総務企画部長より視察参加のお礼と共に、国土の保全や地域林業の活性化のために国有林の取組に引き続き協力をお願いいただくことをお願いして散会となりました。

今後もこのような機会を設け、中部森林管理局の取組を紹介し、ご理解を得るため効果的な情報発信に努めていきたいと考えています。

地域のボランティアと共に！ 熱田区民まつりに出展！

「名古屋事務所、木曾ふれあい推進センター、協力・岐阜署」『街道でつながるひと・まち・未来』をテーマに、十月九日「熱田区民まつり」（主催：熱田区役所、区民まつり実行委員会、出展四十九団体）が中部森林管理局名古屋事務所に隣接する白鳥公園において開催され、名古屋事務所も出展参加するとともに木曾森林ふれあい推進センターやボランティアの協力を得て「熱田白鳥の歴史館」を特別開館しました。

東海道や美濃街道をつなぐ交通の要衝として多くの旅人で賑わっていた熱田は、街道宿場町としての歴史文化の魅力の発信に取り組みされており今年の区民祭



混雑した出展ブース（第1会場）



歴史館でのミニ椅子作り（第2会場）

りには、東海道から桑名、鳴海、宮、美濃街道から垂井、木曾川上流地域から木曾（広域連合）、加子母、下呂の七つの宿場町（地域）から参加され、楽しさ美味しさ溢れる賑やかなブース、お獅子の練り歩きや、和太鼓の音が響くステージイベント、区制八十周年プレイベントの「大声コンテスト」など盛りだくさん催され、およそ一万一千人の市民（主催者発表）が訪れました。

名古屋事務所では「木とのふれあい」をテーマに、第一会場の出展ブースでは「サクラ」の枝を使ったストラップ作りを、第二会場である「熱田白鳥の歴史館」ではミニイス作りのコーナーを開設し、ボランティアグループFCA（フォレストサークルあいち）の方々十一名の協力を得て対応しました。

ブースでは待ち時間が出るほどの盛況で、子供から大人まで三百人がストラップ作りを、歴史館のミニ椅子作りでは限定四十人分の整理券が十数分で無くなりました。参加された方々は、完成品の成果に一喜一憂しながらも「ありがと」「楽しかった」歴史館では「木に囲まれて落ち着く」「知人を連れてまた来ます」といった声も聞かれ、木（樹）とのふれあいを堪能していました。

今後も、地域と連携し情報発信に努めて参ります。

各地からのたより

地域を担う高校生が

国有林の現場を見学

「東濃署」八月三十一日、前日の台風の影響も無く快晴の中、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科の三年生、三十八名が東濃森林管理署管内の国有林で治山工事現場などの見学を行いました。

これは近年、局地的な豪雨などによる山地災害が各地で頻発する中、地域の未来を担う高校生に森林土木について理解を深めていただき、また進路決定の参考にしていただこうと一昨年より始めた取組です。

当日は、教室で国有林の役割や治山工事の目的・工法等について東濃署治山グループの職員から事前説明を受けた後、

湯舟沢国有林（中津川市神坂）に移動し、恵那山（二、一九一メートル）の北側斜面の崩壊地で実施されている姥ナギ沢復旧治山工事の現場を見学しました。

同現場では、崩壊斜面の上部に登り、署員から、山腹工事の方法などについて説明を受けました。生徒たちは、谷底まで四〇〇メートルもある斜面を眼下にして実際に使われたロッククライミングマシン（急斜面にワイヤーで吊され崩壊地を整斉する建設機械）の写真に見入り、普段目にするのではない治山工事のスケールを実感したようでした。

午後は、同国有林内の造林事業実行箇所において、神坂首席森林官から、林業は農業と違い、収穫までに最低でも五十年〜六十年程度の年月と労力を必要とす



教室での事前学習